

こんな力エル見なかつた！？

国内
外来種

アズマヒキガエル の目撃情報を募集しています



成体

鼻先からお尻まで4~15cm

エゾサンショウウオの卵もチューブに入っていますが、もっと太くて短いので区別できます

細長い透明のチューブに黒い粒状の卵

太さは1cmくらい、長さは1mを超える



現在札幌市内におけるアズマヒキガエル定着状況がはっきりとわかっていないません。

見つけたときは下記までご連絡ください。

※いただいた情報は、北海道、かんガエル（右記参照）と共有し、アズマヒキガエル対策に活用します。

札幌市環境局環境都市推進部
環境共生担当課 生物多様性担当
〒060-8611
北海道札幌市中央区北1条西2丁目
TEL : 011-211-2879



mail (biodiversity@city.sapporo.jp)

南区における アズマヒキガエル対策

札幌市南区へのアズマヒキガエルの侵入を契機として、有志の活動団体「両爬の生態系をかんガエル・札幌市南区チーム」（略称：かんガエル）が結成されました。

かんガエルでは、基本的には北海道札幌市の在来の生態系を維持していくために、両生類・爬虫類を中心に様々な影響を考え、調査・対策を進めています。特にアズマヒキガエルがよく見られる4月下旬～5月下旬の繁殖期から夏にかけて、見回り調査などを実施しています。

かんガエルの活動にご協力いただける方は左記問合せ先にご連絡下さい。

国内
外来種

アズマヒキガエル とは (*Bufo formosus*)



札幌市の生物多様性
PRキャラクター
カッコー先生

特徴

- 大きさは4~15cmの大型のカエル。道内の在来種のエゾアカガエル(5~7cm)よりもかなり大きくなる。
- 背中には大小のイボがあり、特に鼓膜のある耳腺が大きく目立つ。繁殖期のオスの一部は皮膚全体がブヨブヨした質感になる。
- 体色は褐色、灰褐色、黄褐色、赤褐色など個体差がある。繁殖期のオスの一部は目立つ黄色になるものがいる。



在来種への影響

- 北海道に昔から住むカエルは右図のエゾアカガエルとニホンアマガエルの2種である。
- アズマヒキガエルは背中や目の後ろのイボに毒を持ち、オタマジャクシや卵にも毒がある。
- アズマヒキガエルのオタマジャクシの毒により、それを食べた在来のエゾアカガエルやエゾサンショウウオのオタマジャクシを死なせてしまうことが分かつてきた。(北海道大学 岸田准教授らの研究結果*1)

生態

- 夜間に活発に活動する。
- 4~5月にかけて、山林や草地から池や水たまり等に移動し、集団で産卵する。
- 3週間ほどで卵からオタマジャクシになり、約2か月で1~2cmほどのカエルになる。
- 成体は「のっしのっし」と四足歩行し、跳ねて移動することはまれである。
- 繁殖期以外は山林や草むら等の地面上で活動している。
- 10~4月ごろは、穴を掘って土中で冬眠する。
- 鳴き声はクックッと、小さめの声で鳴くが、繁殖期以外に鳴くことはほとんどない。

繁殖行動

- 産卵のため、繁殖期(春)だけ池や沼に集結する。
- 普段は山林や草原、住宅地の花壇等に潜む。



*1 Kazila, E. and O. Kishida. 2019. Foraging traits of native predators determine their vulnerability to a toxic alien prey. Freshwater Biology 64(1): 56-70.

※注意

- アズマヒキガエルには毒があるので、触った手で目や傷口はこすらず、触ったら手をよく洗いましょう。
- 飼っていたアズマヒキガエルや捕まえたものを他の場所で野外に放すことは北海道生物多様性保全条例で禁止されています。